

第3章	アジア各地の農業	学習日 月 日	名前
-----	----------	------------	----

教科書 P～ 要点ノート P48～

(1) 中国

広い国土・広い耕地面積、But 農業人口も多い

1949 中華人民共和国成立、(1 )の設立 → 生産意欲の低下・生産停滞

1970年代 (2 )の導入・(3 )の解体 → (4 )の出現

【 農業の分布 】

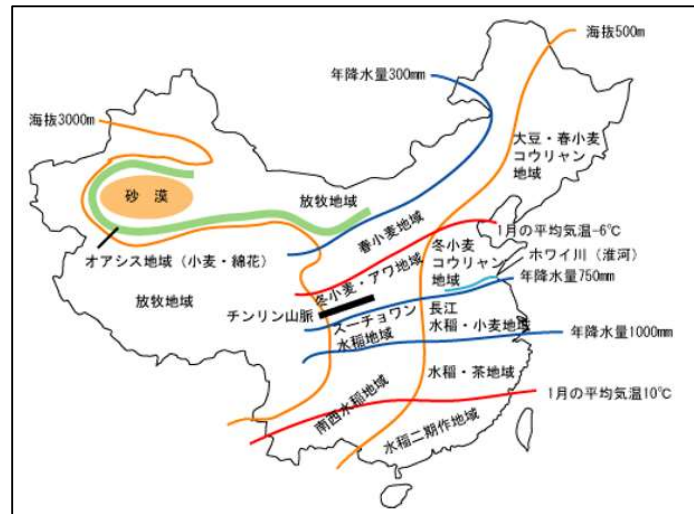
① 標高 3000m ラインと年降水量 300 mm ラインで東西に分ける

→ 東は②へ

→ 西は牧畜地帯、オアシスではオアシス農業を行う

② チンリンニホワイラインを中心に南北に分ける

(これがほぼ年降水量 750 mm ライン)



→ 北は畑作地帯  
1月の平均気温 -6°C ラインより  
A 北は(5 )地域、大豆やトウモロコシも栽培  
東北 … リャオ川、ソンホワ川流域  
B 南は(6 )・(7 )地域  
華北 … 華北平原 = 黄土地帯、黄河流域

→ 南は稲作地帯  
年降水量 1000 mm ラインより  
A 北は(8 )地域  
華中 … 長江流域 = 長江中下流平原、クレーク網が広がる水郷地帯  
(9 )盆地 … 稲作中心  
B 南は稲作・茶地域  
1月の平均気温 10°C ラインより南に行くと稲の二期作地域となる  
華南 … (10 )流域、コメの(11 )地帯

(2) タイ

特徴 (12 )流域 … 運河と水路網が広がる → 稲作がさかん

雨季の増水に対応した浮稲の栽培(現在は減少)

1970年代 (13 )… 高収量品種の開発・導入 = 矮小化された作物の導入

例) IR8(ミラクルライス) … 収穫量は倍増。高収量 = 穂の重みに耐える矮小化した茎

But 緑の革命で導入された品種の導入には種子の購入が必要、また栽培には化学肥料が必要よって、緑の革命の結果としては

※ 今後は(14 )の使用量減少などの工夫も必要。

世界のコメの生産量は7億トンを超える。1位～10位はアジアの国々。日本は12位。

貿易量はわずか5% = (15 )的色彩が強い

しかし、タイは世界有数のコメ輸出国 … 生産費が安いいため、国際競争力は強い

(輸出は中国商人が進出している = 農民の取り分は少ない)

近年は農業が多角化

→ エビの養殖(マングローブ林の破壊)、鶏肉、さとうきび、キャッサバ、天然ゴムなども増加

農業生産物を利用した工業も発達 = アグロインダストリー

(3) インド

主な生産地

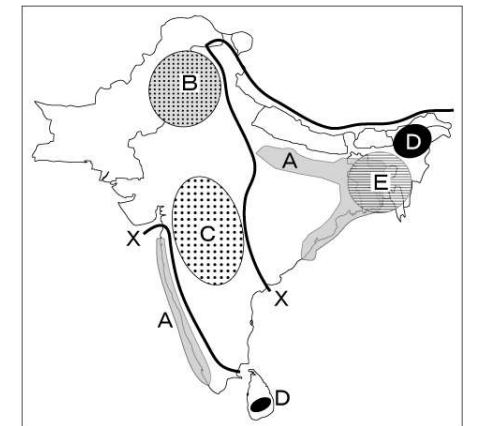
コメ … ガンジス川下流域、西ガーツ山脈以西の沿岸部

小麦 … パンジャーブ地方(インダス川中流)、灌漑による栽培

綿花 … デカン高原 = レグール土

ジュート … ベンガル地方

茶 … アッサム地方



もともと生産性は低かった(灌漑設備や栽培技術が遅れていた、(16 )の残存)

(16 )の残存)

→ 土地改革は進まないものの、緑の革命によって、収穫量は増大

※ 近年はコメを輸出するまでになる。

その他に「白い革命」= 牛乳、「青い革命」= 水産業、「黄色の革命」= 大豆、「ピンクの革命」= 肉